



法学部准教授 西谷 斉

現在私は近畿大学の在外研究制度によりドイツのハイデルベルクにあるマックス・プランク外国公法・国際法研究所 (Max Planck Institute for Comparative Public Law and International Law; MPIL) において 2017 年 9 月 1 日～2018 年 8 月 31 日の予定で在外研究中です。「ハイデルベルク便り」ではこちらでの研究生活や暮らしぶりを中心に皆様に近況をお伝えします。

### 在外研究先の紹介

マックス・プランク協会 (Max Planck Society) は戦前のカイザー・ウィルヘルム協会を引継ぐ形で物理学者のマックス・プランクの尽力により 1949 年に設立されたドイツを代表する学術研究機関です。私が現在所属している外国公法・国際法研究所 (以下「MPIL」または「研究所」) はドイツ国内にある合計 83 のマックス・プランク研究所および関連施設の中の 1 つで、協会設立年である 1949 年にハイデルベルクに設立されました。主に国際公法、EU 法、比較憲法および比較行政法の理論研究ならびにこれらの学問分野に関連する最先端のトピックを中心に研究がおこなわれています。MPIL はハイデルベルク大学の広大な新キャンパスの北の端にあり、ハイデルベルク中央駅からバスまたはトラム (路面電車) に乗って 10 分ほどで着きます。



研究所の正面玄関。現在内装工事中のため、今は建物の裏側から出入りしています。



図書館の閲覧室 (2 階)。1 階にも閲覧室があり、人が多い時期は 1 階と 2 階の席がほとんど埋まります。

MPIL には欧州をはじめ世界中から多くの研究者や博士論文を執筆中の学生が集まってきます。私が見てきた中ではドイツ、フランス、スペイン、イタリアから来た研究者や学生が多いですが、他にも米国、北欧、東欧、トルコ、中南米など国際色豊かです。短期滞在の研究者もいるので一概には言えませんが、常時 50～60 名の研究者と学生が滞在しているのではないのでしょうか。今はなぜかアジア出身者が少なく、私の他には中国人とインド人が数名いるだけです。

ここの図書館は非常に充実していて、国際法関連では欧州で最大級の蔵書数を誇るそうです。聞いた話では研究所の建物の地下に巨大な書庫が存在するとか…。研究所のサイト上で欲しい図書を指定すればすぐにスタッフが専用の棚に届けてくれます。ただし、一部の研究者を除き、自分で書庫に入って勝手に本を持ち出すことは禁止されています。

MPIL では毎週月曜日に 2 時間の研究会が開かれ、研究費を受けている学生や研究員を中心に報告と質疑応答がおこなわれます。研究会は週ごとにドイツ語と英語で交互に開催されることが多く、今のところ私は英語の週だけに参加しています。また、単発のシンポジウムや定期的なミニ研究会も開催されています。私が最初に参加した月曜の研究会では 50 名ほどの参加者の前でいきなり自己紹介スピーチをすることになり、想定外の事態に

かなり焦りました（新参加者はその場で自己紹介するのが恒例らしいです）。

私は MPIL 所長の Anne Peters 教授（国際法）に招聘された形になっていることもあり、Peters 教授のミニ研究会に参加しています。月曜の研究会はどちらかといえば分野横断的あるいは政治的なテーマであることが多く、ミニ研究会ではより専門的な内容が扱われています。例えば月曜の研究会では「今後のドイツの対外政策について」、「マクロン大統領の EU 改革案の評価」といったテーマが扱われ、たまに EU 裁判所やその他の国際裁判所の最近の判例紹介がおこなわれます。私が参加している火曜日のミニ研究会は 15 名ほどの人数で主に各自の研究テーマを紹介する形でおこなわれます。直近では「フェイクニュースと国際法」というテーマで報告があり、フェイクニュースの流出とダメージによる国際法違反の可能性やその規制のあり方について議論しました。



MPIL に来ている研究者と学生は英語を流暢に話せることは当たり前で、母国語以外に英語を含め 2、3 か国語は話せる人が多いです。どの研究会でも報告は一人せいぜい 20~30 分でそこから先はひたすら質疑応答とディスカッションです。皆さん早口ですが私も何とか議論についていき発言するように努力しています。

研究所は日曜と祝日以外は基本的には空いており、人が多く集まる 8 月は日曜も空けるそうです。MPIL に来ておおよそ 2 カ月が過ぎましたが、皆フレンドリーであると同時にお互いに干渉しない文化？があり、居心地は今のところ問題ありません。昼時には気の合う仲間とハイデルベルク大学の学食棟（Mensa/メンザ）でゆっくりと昼食をとることが多いです。ですから昼の 1 時間は施設からほとんど人がなくなります。また、毎週水曜の午後には研究所の一室でのコーヒータイムがあり、研究者同士の交流の場になっています。さらに月 1 回のペースでハイデルベルク中心部でのパーティーも開催されています（開始時間がいつも夜 9 時のため、私はまだ参加できていません）。その他、バスをチャーターしての研究所の小旅行に参加する機会もありました。そのときは研究所の職員たちも参加して、ゲーテの「鉄の手ゲッツ」で有名なネッカー川沿いのホルンベルク城へ行きました。その日は平日だったにもかかわらず研究所は「臨時休業」。「休む時は徹底的に休む」というのがドイツ流のようです。同時にそれは MPIL の研究機関としての驚異的な生産性の原動力なのかもしれません。

## ハイデルベルクについて

ハイデルベルクはドイツ南部バーデン＝ヴュルテンベルグ州の北西に位置する、人口 15 万人ほどの街です。大学と観光の街として有名でドイツ国内はもちろん世界中から多くの観光客を集めています。ネッカー川に架かる橋（アルトブリュッケ）とその先の山の中腹で威容を誇るハイデルベルク城はこの街のシンボリック的存在で、観光ガイドや絵葉書などの写真によく使われています。いわゆる「古城街道」に位置していますが、日本でも人気があるノイシュヴァンシュタイン城（「ロマンティック街道」）とセットで旅程が組まれることも多いようです。旧市街（アルトシュタット）周辺に名所が集中していることもあってか、1 泊 2 日の滞在、人によっては数時間（！）の滞在で次の目的地に向かう人が多いと聞きます。



ハイデルベルク城の反対側の丘にある「哲学の道」（Philosophenweg）から見たアルトブリュッケと城。「朝もや」のため少し霞んで見えます。

私たち家族が住んでいるのはノイエンハイム（Noienheim）という地区で、ちょうどアルトシュタット地区と大学や研究所のある地区の間にあたります。研究所へはバスで 6 分ほどの距離です。近くにスーパーがあり、バスとトラムの駅にも近いので生活には便利です。5 分も歩けばネッカー川に出るので休みの日は家族で散歩をしたり、公園でくつろいだりします。とにかく緑豊かな公園がたくさんあるので子育てにはよい環境だと思います。子供を連れて歩いていると通りすがりの人が微笑んでくれたり、公園で話かけてくれたり、街全体で子供を大事にしている雰囲気があってその面でも過ごしやすいです。ビール、ワイン、パン、ハム、チーズ、野菜、フルー



ツなどの値段が日本と比べると安く、食費がそれほどかかりません。週に一度、家の近所の広場で市場が開かれるのですが、そこで買い物をするのも楽しいです。ただ、やはり魚介類は全体的に高いようです。高いといえば、アパートの家賃相場も周辺の街と比べるとかなり…。この点は観光地だから仕方がないと割り切っています。

8月下旬に到着してから忙しくて家族でゆっくりと市内を観光する時間があまりなかったのですが、9月下旬になってようやくハイデルベルク城へ行くことができました。ケーブルカーがあるので子供連れでも楽に登ることができます。城からはアルトシュタットと

ネッカー川が一望できとても綺麗です（この「便り」の冒頭の写真はこのとき撮りました）。

観光客にあまり知られていない場所を訪ねることができるのも長期滞在の醍醐味かもしれません。研究所で知り合ったドイツ人の友人にハイデルベルクの南に大きなワイン畑があるからいってみるといいよと言われ、先日家族で行ってみました。トラム



左：城の中庭。左の建物がフリードリヒ館（19世紀末再建）、間をはさんで右側がオットハイ  
ンリッヒ館（16世紀）。右：城内にある有名な大樽の上で。シューマンの歌曲にも登場します。

に揺られること約15分。左側の斜面に大きな畑が見えてきます。適当なところでトラムを降り、少し歩くと畑に出ます。その日はたまたま天気がよくてピクニックには最適でした。後で聞いたらハイデルベルクに2つあるワイナリーのうちの1つだったようです。

それともう1カ所、ハイデルベルク城からネッカー川を眺めた対岸に標高400メートルほどの山（Heiligenberg）があるのですが、その頂上には古い修道院跡とナチス時代に建設された野外劇場があります。ここはぜひ行って見たかったので天気がいい日を選んで家族で訪ねました。山のふもとから小さなバスに乗って急な山道を15分くらい行くと目的地です。



野外劇場はバスを降りてすぐのところにあります。外壁をくぐると一気に視界が開け、巨大な野外劇場が目に見えてきます。1934年から35年にかけて古代ゲルマン民族の集会場を意識して建設されたそうで

す。ここにはかのゲッペルスも招かれ、数々の“集会”がおこなわれたとか。

野外劇場を登りさらに奥に進むと中世の修道院跡があります。もともとローマ時代の神殿跡があり、その上に建てられたとのこと。さらにその前にはケルト人が築いた砦があったそうです（今でもその名残があります）。ハイデルベルクの様々な知られざる歴史を感じた一日でした。



修道院の跡。塔には登ることができます。



野外劇場の上方からステージを眺める

さて余白も尽きました。今回の報告はこのあたりで終わりにします。